

分かる！今日よりいいアースへの学び

ESDライブラリ

「ESD」は、Education for Sustainable Developmentの略で、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

ここでは、一見難しそうなESDを分かりやすく、多彩な視点からを紹介するために、地球という星に住むいろいろな生きもの、自然と人間とのつながり、世界の人々が抱える課題など、ESDについて学ぶ時に役立つ図書を紹介します。

子どもだけでなく大人にとっても、新鮮な発見があり地球の未来を考え、行動するためのヒントを与えてくれるでしょう。みなさんもこの機会に、ESDについて学び、そして今日よりいいアース（地球・明日）のため、自ら考え行動する人になりませんか。



ESDライブラリ

幼児以上向け



『地球はえらい』（福音館書店）

案：城雄二 文：香原和志 絵：松岡達英

地球の誕生から、生物の進化、ヒトが文明をもつまでの歴史をダイナミックな絵でわかりやすく解説。子どもたちが初めて地球とその未来を考える第一歩になる絵本。



『つなみてんでんこ はしれ、上へ!』（ポプラ社）

文：指田和 絵：伊藤秀男

東日本大震災の大津波を生きのびた釜石の子どもたちの様子を伝える絵本。日々の防災訓練を活かし、命を守るために助け合った子どもたちは、「自ら考え行動する」というESDの理念を体現している。



『ふゆめがっしょうだん』（福音館書店）

写真：冨成忠夫、茂木透 文：長新太

寒い冬、春が来るのが待ち遠しいのは、人間だけでなく、動物も植物も同じ。冬芽の拡大写真とリズムカルな詩のコラボレーションで、身近な自然観察のきっかけを与えてくれる写真科学絵本。

ESDライブラリ

幼児以上向け



『ちいさいおうち』（岩波書店）

作：バージニア・リー・バートン 訳：石井桃子

小高い丘の上に建つ「ちいさいおうち」が、100年近く同じ場所でじっと周囲の移り変わりを見つめる物語。人間にとって本当に幸せで豊かな暮らしとは何か、1942年の出版以来、問いかけ続けている絵本。



『せんねん まんねん』（理論社）

詩：まど・みちお 絵：柚木沙弥郎

あらゆる生命は、つながっている。あらゆるできごとは、つながっている。日本を代表する詩人のことばと、そのリズムに合わせて描かれた絵が一体となって、壮大な生命のつながりを伝えてくれる絵本。



『あなたがうまれたひ』（福音館書店）

作：デブラ・フレイジャー 訳：井上荒野

一人ひとりのいのちの誕生は、この地球にとって大きな喜びであることを、著者自身が生まれてくる我が子のために謳いあげた絵本。いのちの尊さを伝えてくれる一冊。

ESDライブラリ

幼児以上向け



『あさになったのでまどをあけますよ』（偕成社）

作：荒井良二

新しい1日のはじまり、あたりまえの日常にこそ生きる喜びがあることを静かに伝えてくれる絵本。震災後、被災地の人々と共にアート活動に取り組んできた著者が復興への希望を描く。



『しずくのぼうけん』（福音館書店）

文：マリア・テルリコフスカ 絵：ボフダン・ブテンコ 訳：内田莉莎子

バケツからぴしゃんと飛び出した、水ひとしずくが旅に出る冒険ストーリー。蒸発して、雲となり、雨となり、凍りつき...と水の性質をわかりやすくユーモアいっぱい伝えてくれるモダンな科学絵本。



『世界中のこどもたちが』（ポプラ社）

写真：篠木眞 詞：新沢としひこ

笑顔、泣き顔、キラキラとした瞳、この子どもたちの幸せこそが、この地球の一番大切な宝物にちがいない。世界中の子どもたちがありのままの子どもでいられるようにという願いがこめられた写真絵本。

ESDライブラリ

幼児以上向け



『クマよ (たくさんのふしぎ傑作集)』 (福音館書店)

文・写真：星野道夫

アラスカの自然と野生動物をこよなく愛した写真家、星野道夫。人と自然とが常に対等であることを目指した彼の作品の中にはESDを実践していく上で大切なメッセージがこめられている。



『たねがとぶ』 (福音館書店)

作：甲斐信枝 監修：森田竜義

道端のたんぽぽや空き地のすみれなどの「たね」の観察絵本。身近な自然を観察する心は様々な分野でESDを実行するときの基礎となる。



『くうき』 (理論社)

詩：まど・みちお 絵：ささめやゆき

104歳でこの世を去った詩人まど・みちおの長年にわたる自然・宇宙への想いがこめられた作品。ESDを実践する上でも大事なメッセージが詰まっている。ぜひ声に出して読んでほしい。

ESDライブラリ

幼児以上向け



『地球のスイッチ』（スペースシャワーネットワーク）

監修：世界一小さなエコ会議

「あなたの家にも、地球のスイッチはある。」、地球温暖化を消すための身近なスイッチを紹介するユニークな本。地球を守るための一人ひとりの小さな工夫や気づきを、皆で学び合うことはESDの活動の原点である。



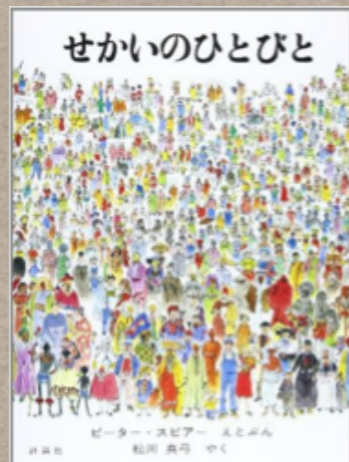
『あめがふるときちょうちょうはどこへ』（金の星社）

文：メイ・ゲアリック 絵：レナード・ワイスガード 訳：岡部うた子

雨が降っているとき、森の動物や虫たちはどうしているのだろうか。やさしい羽をちょうちょうはどこに？小さな子も大人も、ふと身近な自然に触れるきっかけとなる絵本。

ESDライブラリ

小学校低学年以上向け



『せかいのひとびと』（評論社）

作：ピーター・スピーアー 訳：松川真弓

肌や目の色、髪、洋服、家、ことば・・・地球に住む人々の多様性を伝えてくれるロングセラー絵本。お互いの違いを認め合うことは、地球規模の課題に取り組むESDの大事な姿勢である。



『いのちあふれる海へ 海洋学者シルビア アール』（福音館書店）

作：クレアA・ニヴォラ 訳：おびかゆうこ

少女シルビアは海の世界に心奪われ、海洋学者の道へ。海を愛する彼女の思いがあふれるイラストとメッセージで、海の素晴らしさ、環境保護を訴える伝記絵本。



『子どものための防災BOOK -72時間生き抜くための101の方法』（童心社）

作：夏緑 絵：たかおかゆみこ

災害時、もしも子どもだけだったら・・・子どもは自分で判断し、自分の命を守らなければならない。科学にもとづいた防災の知恵と心構えを子どもの目線でわかりやすく解説する一冊。

ESDライブラリ

小学校低学年以上向け



『空と天気のおしごと109』（偕成社）

著：森田正光 写真：八板康磨

世界の人々は皆、毎日の天気を気にかけながら暮らしている。天気の様々な疑問を写真とイラストでわかりやすく解説。ESDの重要な課題「気候変動」を学ぶ上で役立つ基礎知識を教えてくれる。



『あなたが世界を変える日』（学陽書房）

著：セヴァン・カリス＝スズキ 編・訳：ナマケモノ倶楽部

1992年、ブラジルで開催された国連の地球環境サミットで、世界の人々を感動させた少女セヴァン。「リオの伝説のスピーチ」全文が日本語と英語で読むことができる一冊。



『まるごと日本の季節 学研もちあるき図鑑』（学習研究社）

監修：榎本好宏・木村義志・萩原信介

日本の季節を二十四節気ごとに、自然現象、樹木、草花、動物、くらしをテーマにイラストで詳しく紹介。伝統行事や季節の変化に寄り添う日本人の暮らしについて、情報満載のポケット図鑑。

ESDライブラリ

小学校低学年以上向け



『世界のともだち』シリーズ（偕成社）

写真・文：長倉洋海、永武ひかる、松岡一哲 他

世界の子どもたちの暮らしを紹介する写真絵本。各国の子どもたちの家庭や学校に密着し、日常のスナップから、多様な文化に触れることができる。2014年シリーズ第1期12ヶ国刊行。



『太陽と光しよくばいものがたり』（偕成社）

作・絵：かこさとし

作：藤嶋昭、村上武利、中田一弥、落合剛、野村知生

太陽エネルギーを暮らしに役立てる最新技術、光触媒。そのしくみを様々な実験を通して、イラストでわかりやすく解説。身近な気づきから学ぶ楽しさ、科学への探究心が、子どもたちに伝わる絵本。



『もったいないばあさんと考えよう 世界のこと 生きものがきえる』（講談社）

著：真珠まりこ

もったいないばあさんが、ゾウやヒョウなど子どもたちに人気の動物の種ごとに、絶滅の理由をわかりやすく教えてくれる。人間の行動がはるか遠くに暮らす動物たちにも影響を及ぼしていることを実感できる一冊。

ESDライブラリ

小学校低学年以上向け



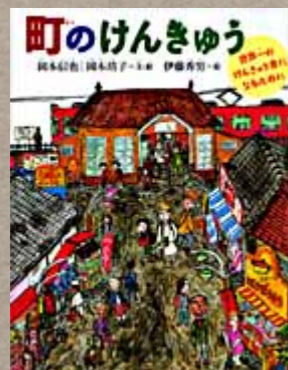
『今森光彦の里山さんぽ図鑑』（世界文化社）
著：今森光彦

里山で長年フィールドワークを続ける写真家が、その魅力を伝えるポケット図鑑。ESDの主要テーマである生物多様性について学べ、また里山散歩の実用的なガイドブックとしても役立つ。



『僕は46億歳。』（学研教育出版）
作・絵：豊田充穂 監修：杉田精司

46億年におよぶ地球の歴史をカレンダー12ヶ月間に当てはめ、主人公「地球」がわかりやすくナビゲートする地球史絵本。21世紀の最新の科学知見を盛り込んだ解説は興味深い。



『町のけんきゅう』（福音館書店）
作：岡本信也・岡本靖子 絵：伊藤秀男

考古学の現代版、考現学の第一人者である著者が、日本各地を歩いて見つけた考現学採集をまとめた一冊。世界一の研究者になるための「フィールドカード」の作り方、テーマの見つけ方はESDの実践に参考になる。

ESDライブラリ

小学校低学年以上向け



『ぼくのものごたり あなたのものがたり』（岩崎書店）

文：ジュリアス・レスター 絵：カレン・バーバー 訳：さくまゆみこ

アフリカ系アメリカ人作家が、人種や肌の色による差別の無意味さをわかりやすいことばで語りかけた絵本。人種や国の違いを越えて、一人ひとりの「ものがたり」があることを訴える。



『桜守のはなし』（講談社）

作：佐野藤右衛門

日本全国を飛び回り、傷ついた桜を手当てし、桜の新種をさがす著者は「桜守」とよばれている。子どもたちにむけて、桜を守ること、木のいのちを継ぐことへの思いを、わかりやすく語りかける写真絵本。



『まるごと日本の世界遺産』（講談社）

著：増田明代

富士山、平等院鳳凰堂など日本の世界遺産についてまるごとわかる決定版。世界遺産の歴史、ユネスコの成り立ち、登録を決める方法、基準なども詳しく解説。

ESDライブラリ

小学校低学年以上向け



『風の子へようこそ』（福音館書店）

作：アランドラモンド 訳：まつむらゆりこ

「自然エネルギー」によって島の電力をすべてまかなうという先駆的な試みに成功したデンマークのサムス島の物語。どのように人々が協力し、エネルギーの自立を実践していったのか興味深い。



『ふろしき大研究 暮らしの知恵と和の文化』（PHP研究所）

監修：宮井株式会社

結ぶだけで簡単にいろいろな形のものを包むことができ、便利な日本のふろしき。その歴史やエコに役立つ使い方、包む文化、日本各地や世界のふろしきまで広く探ったふろしき事典。



『森はだれがつくったの？』（童話屋）

作：ウィリアム・ジャスパソン 絵：チャック・エッカート 訳：河合雅雄

荒地だった大地が森に成長する中での様々な生命の営みを描いた200年の物語。巻末に森を観察するときのアドバイス付。世界的な霊長類学者であり、雑木林を愛する著者の名訳が森の世界へと案内してくれる。

ESDライブラリ

小学校低学年以上向け



『ぼくの街に地震がきた 大震災シミュレーションコミック』（ポプラ社）

まんが：名古屋裕 原案：国崎信江 監修：目黒公郎

学校で、街の中で、地震が起きた瞬間から避難所での暮らしなど、いろいろな場面をイメージして災害に備えることの重要性をまんがでわかりやすく伝える。巻末の「地震防災マニュアル」をぜひ参考してほしい。



『いっぽんの鉛筆のむこうに』（福音館書店）

文：谷川俊太郎 写真：酒井信彦ほか 絵：堀内誠一

スリランカ、メキシコ、アメリカ、日本など、一本の鉛筆の生産を支える各国の人々の仕事の様子や毎日の暮らしぶりを伝える絵本。他にも身近なものと世界とつながりをぜひ調べてみよう。



『池上彰のニュースに登場する世界の環境問題 ⑦人口問題』（さ・え・ら書房）

監修：池上彰 訳・文：稲葉茂勝 原著者：キャサリン・チャンバーズ

世界の人口増加にともなう地球規模の課題について考えるきっかけとなる一冊。食料問題、住宅問題、エネルギー問題、そして貧富の差による教育問題などESDの視点で世界の人口についてしっかりと学んでほしい。

ESDライブラリ

小学校低学年以上向け



『地球を救う! 植物 トウモロコシ』 (大日本図書)

著：津幡道夫

トウモロコシは捨てるところがなく、栄養も豊富で加工食品にも活用され、未来のエネルギー「バイオマスエタノール」としても話題の植物。毎日の食卓からESDにつながる発見がたくさんあることを教えてくれる。

ESDライブラリ

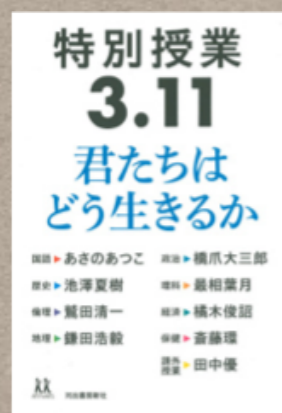
小学校高学年以上向け



『海は生きている』（講談社）

著：富山和子

地球温暖化を、陸地に住む人間と海との関わりの問題として捉え、いのちのつながりの大切さを明解な論旨で訴える。環境問題テーマに児童向けに出版された『生きている』シリーズの完結編。



『特別授業 3.11 君たちはどう生きるか』（河出書房新社）

著：あさのあつこ、池澤夏樹、橋爪大三郎、鷺田清一、鎌田浩毅、最相葉月、橘木俊詔、齋藤環、田中優

東日本大震災から月日が経つ中で、震災の光景だけを思い出すのではなく、もう一度「自分の震災」としてむきあってほしい。国語、政治、歴史、理科など、著名な教授陣による全9科目の誌上特別授業。



『センス・オブ・ワンダー』（新潮社）

著：レイチェル・カーソン 訳：上遠恵子 写真：森本二太郎

世界中の人々の地球環境への意識を大きく変えるきっかけとなった『沈黙の春』で知られる著者の最後の作品。自然と人間との関わりについての信念がこの一冊に詰まっている。

ESDライブラリ

小学校高学年以上向け



『世界を、こんなふうに見てごらん』（集英社）

著：日高敏隆

動物行動学者の日高先生が、長年にわたり「なぜ？」と問い続けてきた、不思議と驚きに満ちた世界をユーモアあふれる優しい言葉で綴ったエッセイ集。生物多様性の重要性についてもわかりやすく伝えている。



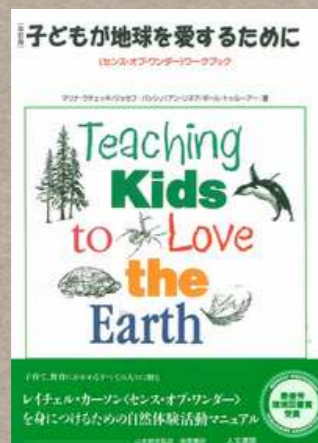
『空色勾玉』（徳間書店）

作：萩原規子

舞台は古代の日本、神話をモチーフにした和製ファンタジー。光と闇、という対立を越えてお互いの結節点を探すというこの作品のモチーフは、異なる価値観や多様な生き方を超えて平和的な共存をめざすESDの理念に通じる。

ESDライブラリ

大人向け



『子どもが地球を愛するために（改訂版）』（人文書院）

著：マリナ・ラチェッキ、ジョセフ・パッシノ 監訳：山本幹彦 訳：南里憲

子どもが地球を愛するための自然体験活動をわかりやすく紹介。センス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見はる感性）がわき起こる活動マニュアルの日本語版。